

深川消防団ニュース



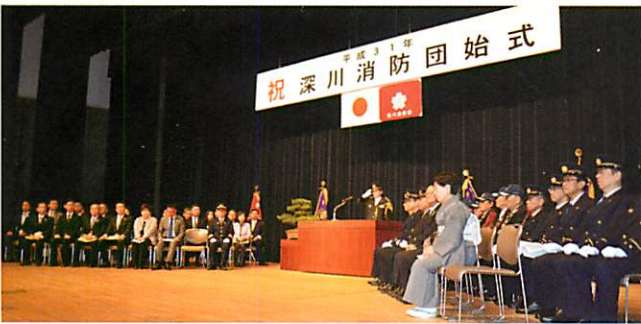
さきもり

発行 深川消防団
 所在地 〒135-0042
 東京都江東区木場
 3丁目18番10号
 深川消防団本部
 TEL:03-3642-0119
 FAX:03-3641-4422

平成31年
祝 深川消防団始式



平成31年 深川消防団始式



深川消防団始式

平成31年1月13日(日)江東区文化センターにおいて深川消防団始式が行われました。

消防団始式は年頭に実施する新春恒例の行事です。

式典では、平山消防団長の訓示、山崎江東区長の告辞及び御来賓の方々より祝辞をいただいた後、各表彰式では消防団員等の活動実績に対する表彰や永年勤続功労消防団員の家族に対し感謝状の贈呈が行われました。また、多くの新入団員の紹介が行われ、新入団員の代表者が大きな声で宣誓を行いました。

深川消防団始式は、新年を迎え、消防団員の士気高揚を図り、地域の安全・安心を祈願し、地域住民の皆様へ消防団活動に対する認識と信頼を深めるとともに防火防災へ関心を高めることにより火災予防への意識を向上させる目的として実施しています。

新年号となった令和元年も一人でも多くの方々に防災への関心をもってもらえるように、また、一人でも多くの新入団員が入るよう一生懸命活動してまいります。

(団本部 中澤 聡)

深川消防署 新署長挨拶



深川消防署長
高崎 剛彦

4月1日付けの定期人事異動で、第60代深川消防署長を拝命いたしました。

どうぞよろしくお願いいたします。私は平成5年から平成8年まで、当署の旧豊洲出張所に併設されていた家族寮に居住していたこと、及び本庁でオリンピック・パラリンピック準備室長を担当していたことから、東京2020大会に向けて急激に伸び行く当署管内に特に深い思い入れがあり、この地で勤務させていただくことを大変光栄に思うとともに、身の引き締まる思いであります。

すでに、管内では大会関連施設もその姿を見せ始め、今後も開催に向けて急速に発展していく様相を呈しています。つきましては、今後とも実績・実力ともに充実している深川消防団の皆様と、実動部隊の両輪として共に手を携え、地域の安全・安心のために努力させて頂く所存ですので、引き続きのご支援とご協力をお願いし、着任の挨拶とさせていただきます。

経歴

昭和63年4月東京消防庁入庁、消防署(蒲田、麴町、成城、麻布、四谷)、本庁(企画課、総務課、人事課、教養課)、オリンピック・パラリンピック準備室長を経て、東村山消防署長を拝命、本年4月に深川消防署長に着任。

新地域防災担当課長挨拶



地域防災担当課長
清水 猛

4月1日付け東京消防庁定期人事異動により、地域防災担当課長を拝命致しました。

伝統、歴史ある深川消防署で勤務させて頂くことを、誇りに思うと同時に身の引き締まる思いです。

地域の防災リーダーである深川消防団と深川消防署が両輪となって町会、自治会の防災力向上に向けて取り組んでいきたいと思っております。一生懸命に頑張っ参ります。ご支援、ご協力の程お願い致します。

経歴

昭和62年4月東京消防庁入庁、消防署(目黒、品川、江戸川、麴町、京橋)、本庁(第二消防方面本部、第六消防方面本部)、本年4月に深川消防署地域

防災担当課長に就任。

新防災安全係長挨拶



防災安全係長
齋藤 直也

この度、防災安全係長になりました。齋藤です。

消防団と消防署は、都民の生命財産を守るといふ志でつながっている組織であります。

深川消防団は、人情味に溢れ、人と人との絆を最も大切にしている消防団であり、担当として身を引き締めて仕事をしたいと思っております。

少しでも、伝統のある深川消防団の力になれるよう「百折不撓」の精神で力の限り頑張りますのでよろしくお願いたします。

新地域防災担当係長挨拶



地域防災担当係長
矢野 浩二

このたび、4月1日付けで地域防災担当係長に就任しました矢野と申します。

消防団の皆様には、平素より、さまざまな場面において地域のためにご尽力いただき、誠にありがとうございます。今後とも消防団の皆様と災害対応、祭礼等の警戒や訓練指導等で連携を図り、地域の安全安心を一緒に守っていきたく思います。ご支援ご協力の程、よろしくお願いたします。

新3部大隊長挨拶



深川消防署3部大隊長
溝口 章浩

このたび、4月1日付けで3部大隊長兼救急係長に就任しました溝口と申します。深川消防団の皆様におかれましては、日頃から地域の安心安全のためにご尽力いただき感謝申し上げます。私の出身は九州の宮崎で、東京に出てきて20年になります。しかし、深川消防署を含む第7消防方面での勤務は初めてであり、土地勘もなく不安はありますが、東京2020大会を目前に控え、今後益々お力添えをいただき、深川の防火防災の為に一致団結して頑張っていく所存ですので、宜しくお願致します。

体力錬成会〜歩け歩け大会〜

平成31年2月17日(日) 去年の室内競技と打って変わって土気高揚、体力錬成として歩け歩け大会が行われました。豊洲出張所に各分団からの参加者が集まり、ゴールの有明ワシントンホテルに向けてスタートしました。

コースは東京2020年オリンピック会場(建設中)↓深川消防署有明分署↓防災体験学習施設防災そなエリア東京↓有明ワシントンホテルです。

立ち寄った各施設では10分団古田分団長が説明を交えながら案内をしてくれました。「そなエリア東京」では、地震発生後72時間を自分の力で生き抜くための知識を学び消防団員として何ができるのかを考えさせられました。

全ての施設を回り、参加者全員が無事に最終目的地である有明ワシントンホテルに到着しました。各分団の方々と交流し楽しい時間を過ごせました。

有明ワシントンホテルでは、参加者と懇親会を開催し交流を深め、体力錬成会を終了しました。本当に楽し



ました。本当に楽し

い時間を過ごせ良かったと思います。早朝から参加して頂きました皆様、ありがとうございました。

(第10分団 山本 孝之)

深川消防団幹部教養

平成31年4月14日(日)に深川消防署にて深川消防団幹部教養が実施されました。

対象は、分団長及び副分団長で①安全管理に関する講義 ②礼式・部隊操練指揮訓練 ③現場活動指揮訓練 ④

東京2020オリンピック・パラリンピック大会に向けた「救急用コミュニケーション支援ボード」を活用した救護要領に関する訓練が実施されました。「救急用コミュニケーション支援ボード」とは救急現場で多く見られる症状をイラストで表記することで話し言葉にバリアのある方に指差して主訴

等を伝えてもらい、円滑な救急活動を図るものです。訓練では第七分団の本分団長が英語のみを話す外国人役となり、皆戸惑いなが

らもコミュニケーションボードを活用して救急要請訓練を行いました。言葉の壁を越えられるツールを手にするこ

とで東京2020オリンピック・パラリンピック大会へ日本に訪れるたくさん

の外国人へのおもてなしが可能になることを期待します。

(第8分団 井上 毅志)



女性団員・新入団員教養

毎年参加しているこの訓練ですが、今年も座学では消防団の使命や災害活動の原則など、実技では礼式、都民指導要領、活動訓練をA・B・Cの3班に分かれて訓練しました。礼式では、集合解散要領及び部隊移動要領を行い、都民指導要領では、消火器及びスタン

ドパイプの取り扱いに対して興味を持ってもらえるような説明要領などを

学び、消防活動訓練では、防火衣を着装してホースの取り扱いや放水訓練などを学びました。

今年、私は隊長役でした。普段何気なく号令に従って行動していましたが、改めて指揮者と

して号令をかけることの難しさやタイミングなど訓練回数を重ねていかなければ上達しないことを痛感しました!

女性消防団員として、現場での立ち位置や役割など、どうあるべきか迷うことも多々ありますが、機会があれば消防職員(女性)の方から指導やお話を聞いたりしたいなど、ふと思うのでした。

(第7分団 藤田 亨子)



有明地区の消防団員合同訓練

平成31年2月13日(水)深川消防署有明分署において、有明地区の消防団員(第10分団の2部)に所属する15名が訓練を実施しました。訓練は、震災用資器材の取扱い訓練及び放水訓練を実施しました。参加した消防団員は、有明地区の各企業に所属しています。訓練を通じて交流が深まり消防団員として連携を強化しました。

訓練を通じて交流が深まり消防団員として連携を強化しました。

訓練を通じて交流が深まり消防団員として連携を強化しました。

訓練を通じて交流が深まり消防団員として連携を強化しました。

訓練を通じて交流が深まり消防団員として連携を強化しました。

訓練を通じて交流が深まり消防団員として連携を強化しました。

訓練を通じて交流が深まり消防団員として連携を強化しました。

訓練を通じて交流が深まり消防団員として連携を強化しました。



江東区成人式消防団員募集活動

平成31年1月14日、「ティアアラこうとう」で開催された江東区成人式において、消防団員の募集広報活動が行われました。当日は、各団員が会場に集まった沢山の新成人に対して、消防団入団のチラシ配布や日々の活動内容の説明を行ない、消防団の存在と役割をPRしてきました。

新成人の方々にとっては消防団の活動はあまり馴染みがないかもしれませんが、深川消防団は今若い力を必要としています。キャッチコピーは「わが町深川を守る!」です。興味のある方はぜひ私たちと一緒に活動しましょう。(第1分団 中村 哲也)



東京消防出初式!

平成最後の東京消防出初式が、平成31年1月6日(日)東京ビッグサイトにて挙行されました。深川消防団は徒列部隊に参加し、第10分団山本団員が団旗手を務めました。

初めて参加した第9分団新入団員の中野団員から感想を聞いてみました。「入団し初めて出初式に参加しました。多数のお客様が見守る中、正服を着て徒列部隊での行進は、身の引き締まる思いと共に、来て下さっている都民からの消防部隊への期待を感じました。自分自身も、消防団員として第9分団管轄区域の安全・安心の為に訓練に精進して参ります。」との感想を寄せてくれました。平成から令和へと年号を変え、来年はどんな出初式が行われるのでしょうか?楽しみです。(第9分団 岩淵 初美)

春の火災予防運動

ファイヤープラザ in ぶかがわ2019

平成31年3月2日(土)イトーヨーカドー木場店において、春の火災予防運動にともなう「ファイヤープラザ in ぶかがわ2019」が開催され、多くの地域住民が集まりました。消



防車展示コーナーでは、朝からはしご車からはしご車搭乗体験をしようとして整理券に並ぶ親子連れの姿も。他にも、初期消火訓練、AEDによる応急救護体験コーナー、ミニ防

火衣・正服試着体験なども行われ、今回新たなコーナーとして、「皆に知らせよう!大声測定コーナー」などもありました。また、深川消防少年団鼓笛隊による演奏も行われ、耳を傾けていた方々の心を和ませていました。

入口近くでは、平山団長と椎名副団長が自ら消防団員募集コーナーに立ち、「深川消防団です!一緒に地域を守りませんか。自分たちの手で自分たちの街を守りましょう!」と活動に取り組む消防団員を励ましなが、共に活動に参加し消防団入団促進へのPRを行っていました。

また、建物内で行われた、応急救護訓練では真剣に指導を受けながら住民指導に取り組む新入団員の姿がありました。第9分団木下副分団長、第10分団田島副分団長の細やかな指導にうなずき「胸骨圧迫は・・・。」と緊張を隠



しながら住民指導を行っていました。指導を行っていた木下副分団長からは、「物怖じをせず、自身から積極的に指導しようとする姿勢が素晴らしい、将来がとても楽しみです。」というコメントがありました。

晴天の中、土曜日の日中ということもあり、家族連れも多く、地域の防火・防災意識の向上へと繋がっていく良いきっかけとなりました。

2019年度深川消防団は、消防団員の充足率90%以上を目標に掲げており、平山団長の行動と配慮に、多くの諸先輩からの熱い指導が重なり、ますます強固な防災組織として期待が高まる一日となりました。

(第9分団 岩淵 初美)

東京マラソン 消防特別警戒

平成最後の東京マラソンは、あいにくの雨に見舞われ、参加者は勿論、沿道の応援者にとってもかなり厳しい寒さとなりました。

私たち第5分団が警戒に当たっていた門前仲町交差点から深川一丁目の歩道橋付近では、大きな負傷者が出ませんでした。全体の無線ではやはりこのお天気ならでは、「低体温」というワードを耳にすることが多かったです。

薄衣のランナー達は、冷たい雨に長時間晒される上、寒さによりトイレが近くなる為、水分補給を一ついつい怠り



がちになります。

今後、東京マラソンへの参加を考へてる方に覚えてほしいのは、このような状況下でマラソンをする際の準備！まず、肌の露出を防ぐこと。携帯可能なポンチョなどで、雨を防ぐなどした上で、水分を補給すること。脱水状態はより低体温症になりやすくなります。そして、一番大事なことは、無理をしないことです。

トップランナーのように早く走らなくとも、低体温症は起こりうるのです。低体温症に限らずとも、高倍率の中当選した喜びは大きいですが、己と向き合うスポーツの基本を忘れないようにしたいですね。

(第5分団 梅内 美園)



指揮幹部科研修を終えて

平成31年3月16日から17日の1泊2日で、東京消防庁消防学校で行われた特別区消防団指揮幹部科研修に深川消防団を代表して参加しました。この研修は、年に1回東京23区内の各消防団の部長以上を対象に行われる研修です。講義内容は、「現場指揮・安全管理」「消防団員の身分と職務」及び「災害情報収集・伝達」等についてでした。

火災対応訓練では、火災に対する放水要領、筒先を離れた時の危険性及び開口部（吸気側）から注水すると、他の開口部に向かって煙が勢いよく流動し、効果的な排煙が可能になることを学びました。また、要救助者がいる場合は、噴霧注水で要救助者を包み込む



ように放水を行いながら救出することを学びました。

次に現場指揮訓練では、火災が発生している建物全体を確認することや建物関係者を確保し、逃げ遅れた人がいるかどうか、家族構成などを確認して団本部に報告し必要に応じて応援要請をすることを学びました。また、救助活動訓練では、交通事故で複数の傷病者がいるという想定で、重傷度を判断し、団本部に無線で報告し、必要に応じて応援要請をすることを学びました。

団本部は、現場からの無線での入る情報を指揮板に記録します。指揮板には、火災等の災害においてどの分団がどこで活動している、傷病者がどこにいるか、意識レベル、歩行の可否など、これを見れば災害の状況が全て分かるように情報を整理しなければなりません。

実際に訓練を行って感じたことは、現場で傷病者の名前を確認するのは難しく、どの傷病者がどういう状況か明確にしなければならぬのが難しかったです。

大震災が発生し、火災が同時多発した際は、消防団だけで1つの火災に対応しなければなりません。火災対応訓練を通じて情報収集の重要性や火災での放水要領を学ぶことができ、有意義な研修でした。

(第4分団 正本 光生)



平成31年2月24日(日)塩浜一丁目町会において、大規模な防災訓練が実施されました。東京都内に1台しかない「東京消防庁のVR防災体験車」を体験するため、防災訓練に参加しようと地域住民が朝から期待を胸に待ち構えていると、重さ16トンの赤い大型車両がさっそうとあらわれ、多くの視線がVR車へと向けられました。東京都内には約9,000の町会自治会があり、1つの町会が抽選で当たる確率はかなり低いそうです。

防災訓練には江東区長をはじめ多くのご来賓の方々にお越しいただきました。

避難訓練に参加した、高齢者から子供まで約100人近くがVR車で「風水害」、「震災」、「火災」の疑似体験をし、参加者からはその臨場感に驚きの声もでていました。

今回、VR防災体験を含む大規模な防災訓練には、町会長である亀田会長が、長年かけて行ってきた一つの軌跡がありました。

自助、共助、公助を含む3助の力。「いざという時のために！」日頃からの地域の交流こそがいざという時に、力を発揮します。1年間をかけて行われる各種地域行事にはそういった意味合いも兼ね備えています。普段、挨拶程度の隣近所の住民が、1つの訓練を通じて、声を掛け合い、協力し合い、

町を安全で安心して暮らせるように、力を合わせていく。

防災訓練で、知識を学び、体験し、伝えていく。こういった活動に消防署、消防団、地域住民及び近隣企業が連携し助け合っていくのです。

塩浜一丁目町会では、特に問題としていた、保育園に通う乳幼児、高齢者の要配慮者が多いことが課題となつていきます。日中の平常時に、何かがあった時！誰が助けに来てくれるのか？誰が町の中にいるのか？こういった問題に一つの結果として近隣の企業と「災害時応援協定」が締結されました。私たち消防団員も、時代がかわり会社員も多く、平日町の中にいる人も減っているのが現状です。第9分団には勤務



消防団協力事業所

弊社は、防火・防災に積極的に取り組んでいます。

http://www.teisoh.co.jp/ E-mail:info@teisoh.co.jp
PHONE.03-3642-0121 FAX.03-3641-1763

TEISOH 株式会社 帝国倉庫
〒135-0024 東京都江東区清澄 1-5-1

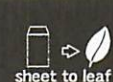
消防団協力事業所



株式会社 **ムトウユニパック**

代表取締役 会長 武藤佳資

私たちは、本社ならびに各事業所を通じ、地域社会への貢献を目指しております。



本社 / 東京都江東区永代 1-7-12 TEL 03-3642-1141 (代表)
https://www.mutoh-u.co.jp/
支店・出張所 / 東京中央・東京西・城南横浜・千葉・さいたま・栃木・前橋・新潟・大阪

地団員がいます。普段は仕事をしながら、いざという時の為に、消防団員として町を守ってくれています。

「自分たちの町は自分たちで守る！」をモットーに一人ひとりが出来る事からコツコツと訓練を積み重ね、地域の皆さまと交流し、安全で安心な町づくりの一助となっていけるように！と思わせて頂く訓練となりました。

(第9分団 岩淵 初美)

深川消防署枝川出張所としては、今回の防災訓練、災害時応援協定を通じて、改めて浮き彫りになっていた要配慮者の問題においても地域の皆さまと連携し、一つの形を作ることが出来ました。

防災力を高めていくには、普段からの防火防災訓練、応急救護訓練等が大切です。今後もより一層、地域住民、深川消防団の皆さまと共に「安全・安心な町づくり」を推進し、地域の一助となるよう努めていきます。

(前枝川出張所長 齋藤 直也)

塩浜一丁目町会においては、平常時の日中、町の中には要配慮者が多くいます。助ける側の人間が少ないというのが重要な課題でした。

私は、町会長として人と人との繋がりを長年かけて大事にしてきました。今回の防災訓練を通じてより強固な



繋がりが、共助の力が生まれました。今後も、塩浜一丁目町会として災害時の応援協定を結んだ各企業等、深川消防署及び地域の後方支援をしてください。深川消防団第9分団と力を合わせ、より一層の防災力を高めていきます。

(塩浜一丁目町会長 亀田 準)

節分祭特別警戒

深川管内の6寺社の神社・寺院で節分祭が行われ、それぞれの受持分団が消防特別警戒を実施しました。消防特別警戒は、深川消防署と深川消防団及び各関係機関が連携し、情報収集及び災害の未然防止に努め、訪れる多くの人々の安全とその対応に万全を期した警戒となりました。



第7分団は江東区木場六丁目の洲崎神社の消防特別警戒を実施しました。当日は多くの地域住民の参拝客で大賑わいとなりました。洲崎神社の節分祭は非常にユニークで豆よりもお菓子が多く撒かれ大人よりも子供の方が多く参加します。本分団長を中心に深川署員と連携し、子供たちに怪我や事故が無いように安全管理に徹底した警戒を実施しました。

(第7分団 藤田 享子)

消防団協力事業所

弊社の社員も消防団員として活動しています。

社員一人ひとりが、防火・防災の知識・技術の向上に取り組んでいます。

ご宿泊・ご婚礼・ご会合等、お気軽にお問い合わせください。

East 21 ホテル イースト21東京 オークラホテルズ&リゾーツ 〒135-0016 東京都江東区東陽 6-3-3 03-5683-5683 (代表) www.hotel-east21.co.jp

消防団協力事業所

「大震災はいつ起こるか分からない」

丸八倉庫株式会社

江東区富岡 2-1-9

HF門前仲町ビルディング4階

小安前団長叙勲祝賀会

平成31年3月9日、小安前団長の瑞宝双光章受章を祝う会がホテルイースト21東京において行われました。この場をお借りし、改めて受章のお祝いを申し上げます。

300人を超える来賓者が集うこの祝賀会は、壮大かつ圧巻であり、これまでの小安前団長の功績とお人柄をうかがい知ることが出来る素晴らしい会でした。

なお祝賀会は、これまで小安前団長と親交の深い方々からのお祝いの言葉



から始まり、余興に至るまで盛りだくさんの内容で、小安前団長が美声を披露されるなど、終始和やかなお祝いのムードに包まれていました。祝賀会の途中では、余興の1つとして、第10分団から懐かしい写真のスライドショーを披露させて頂きました。小安団長時代に第10分団が得た念願の操法大会初優勝の時の写真が映し出された時には、小安前団長に直接優勝メダルをかけて頂いた時の喜びを改めて思い出し、胸が熱くなりました。小安前団長が、優勝メダルをかけてくれた後、「おめでとう。」の言葉と共にポンつと肩を叩いてくれたあの時の感動は一生忘れません。

小安前団長は、団長を退任された後も常に第10分団の事を気にかけて、温かく見守り支援してくださっています。そんな心優しい小安前団長と共にご支援をいただいている奥様に、改めて感謝と叙勲受章のお祝いを申し上げます。ほんとうにおめでとうございます!!!

(第10分団 野口 盛一)



平成30年度受賞者紹介

◆消防庁長官章永年勤続功労章

団本部 副団長 椎名 貞雄

◆日本消防協会定例表彰(勤続章)

団本部 分団長 中澤 聡

◆日本消防協会定例表彰(精績章)

第9分団 分団長 山宮 健一

◆東京都消防協会定例表彰

(功労表彰) 第8分団 分団長 堀川 昌裕

第6分団 副分団長 杉山 修一

◆東京都消防協会定例表彰

(優良表彰) 第4分団 分団長 斉藤 信行

第6分団 分団長 渡邊 鉄男

第1分団 副分団長 三澤 俊徳

第6分団 副分団長 青柳 泉

第2分団 班長 今井 寛隆

第6分団 団員 形屋 敬介

平成30年度退団者紹介

団本部 副団長 椎名 貞雄

第4分団 部長 滑川 和右

第7分団 副分団長 塩澤 光行

第7分団 団員 秋国 和幸

第8分団 部長 山内 浩二

さきもり編集委員

分団名	任	務	職	名	氏
団本部	監	修	団	長	平山 敏夫
団本部	編集委員長	副	団	長	赤澤 光幸
団本部	編集委員補佐	分	団	長	中澤 聡
第1分団	委	員	団	員	中村 哲也
第2分団	委	員	班	長	今井 寛隆
第3分団	委	員	班	長	中島沙江子
第4分団	委	員	部	長	正本 光生
第5分団	委	員	団	員	梅内 美園
第6分団	委	員	班	長	吉田 仁美
第7分団	委	員	副分団長	員	藤田 享子
第8分団	委	員	副分団長	員	庄井 勤
第9分団	委	員	班	長	岩淵 初美
第10分団	委	員	部長	長	棚山美恵子

編集後記

この度、深川消防団を退団するにあたり、編集委員長を退任することになりました。在任中の5年間、編集委員の皆さまには公私にわたりご協力いただき誠にありがとうございました。心より感謝御礼申し上げます。

43年間の消防団活動の中でも、「さきもり」に携わった5年間は私にとっては刺激的で感動的な日々でした。

また、各分団から選ばれた個性あふれる編集委員とさまざまな意見や提案を出し合ってきた事がより良い記事をつくる原動力になったのだと思います。

結びになりますが、これからも「さきもり」が、消防団広報誌として飛躍するように応援しています。

「さきもり」編集委員の皆さま、5年間ありがとうございました。

(椎名 貞雄)